

筑波山周辺地域魅力アップ戦略プランの策定について
地域資源の活用と多様な主体の協働・連携による広域交流の推進

筑波山周辺地域では、TXの開業に伴って、登山やレジャーを目的にした来客が増加していることから、これらの来訪者が満足し、リピーターとなるよう、この度、「筑波山周辺地域魅力アップ戦略プラン策定懇談会」(委員長：小場瀬令二筑波大学教授)の助言・提案等を踏まえ、県・筑波山周辺5市・バス会社で構成する「つくば周辺地域交流活性化実行委員会」が、『筑波山周辺地域魅力アップ戦略プラン』を策定しました。

本プランは、高尾山などと比較し、筑波山及び周辺地域の魅力・優位性と課題等を抽出するとともに、様々な地域資源を活かしながら、本地域の魅力を高め、交流人口の拡大と地域の活性化を図ることを目的としております。

今後、本プランに基づき、関係市や地域づくり団体等との協働・連携による各種事業を展開し、本地域の魅力向上を図ってまいります。

記

- 1 プラン等の概要 別紙のとおり
- 2 魅力向上方策の検討方向
 - (1) 筑波山周辺地域で育まれてきた地のもの・人々を活かす
多様な登山コースを活かした取組みの展開 等
 - (2) 筑波山の山としてのホスピタリティを高める
誰でも登れる筑波山に向けた新たな魅力付け 等
 - (3) 筑波山周辺地域のホスピタリティを高める
筑波山周辺地域の地域資源を活用した周遊ルートの検討 等
 - (4) 水郷筑波国定公園としての品格を高める
水郷筑波国定公園としての品格を高めるための総合的な景観施策の展開 等
 - (5) 県、市、市民等との広域的な連携を強める
筑波山周辺地域における総合的な組織体制や情報発信手段の検討・構築 等
- 3 平成19年度の取組み
 - ・ 本地域の資源を活かし、首都圏を中心にした広域的PRの展開 等

お問合せ先

<つくば周辺地域交流活性化実行委員会事務局>

茨城県企画部地域計画課 県南・県西グループ

担当：田所，小林

電話：029-301-1111(内線2734)

筑波山周辺地域魅力アップ戦略プランの概要

1 プランの構成

事項	内容
対象地域	筑波山周辺地域の5市（土浦市，石岡市，つくば市，かすみがうら市，桜川市）
目的	筑波山をはじめ，筑波山周辺地域を訪れる登山者や観光レジャー客に満足感を与え，リピーターとして確保するため，当該地域の魅力向上を図るための戦略プランを策定し，交流人口の拡大と地域の活性化を図る。
調査・検討内容	<p>第2章 筑波山周辺地域魅力アップ戦略プラン策定懇談会の開催 筑波山周辺地域の行政や各種団体等からの助言や提案</p> <p>第3章 筑波山周辺地域の魅力・優位性及び問題・課題の抽出 高尾山などの状況調査やこれまでの取り組みなどを踏まえ，筑波山及び周辺地域の魅力・優位性や問題・課題などの抽出</p> <p>第4章 筑波山周辺地域における魅力向上方策の検討</p> <p>方向性1：筑波山周辺地域で育まれてきた地のもの・人々を活かす</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 多様な登山コースを活かした取り組みの展開 2) 多数の奇岩怪石群や言い伝えを活かした魅力付け 3) 万葉集に歌われた筑波山“歌垣のつくばね”という歴史的背景を活かしたPR強化 4) 多様な地域資源を活かした体験型観光の展開 5) 特産品の開発促進と販路拡大方策の展開 <p>方向性2：筑波山の山としてのホスピタリティを高める</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 誰でも登れる筑波山に向けた新たな魅力付け 2) 登山者をもてなす配慮 3) 総合的な交通混雑緩和対策の展開 4) 筑波山頂・中腹への集中観光を，すそ野へ誘導する方策の検討 <p>方向性3：筑波山周辺地域のホスピタリティを高める</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 筑波山周辺地域の地域資源を活用した周遊ルートの検討 2) トータル周遊コスト低減方策及び交通便利性向上方策の検討 3) ホスピタリティ向上方策の検討 <p>方向性4：水郷筑波国定公園としての品格を高める</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 水郷筑波国定公園としての品格を高めるための総合的な景観施策の展開 2) 余計なものを省き，本来持っている地のものを前面に出すための景観施策の展開 3) 筑波山のビューポイント（視点場）における景観施策の展開 4) 筑波山神社門前町における景観整備施策の展開 <p>方向性5：県，市，市民等の広域的な連携を強める</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 筑波山周辺地域における総合的な組織体制や情報発信手段の検討・構築 2) 効果的な情報発信手法の検討 3) リピーターの囲い込みに向けたプロモーション活動の展開

	<p>4) 様々な主体との連携による情報発信の推進</p> <p>第5章 筑波山周辺地域における魅力アップ戦略の実現に向けて</p> <p>(1) 魅力向上方策の展開に向けた取り組み時期及び想定される主な主体</p> <p>(2) 各種事業の展開に向けた基本的な考え方</p> <p>1) 効果的なモデル事業・社会実験の実施</p> <p>2) 官民一体となった横断的な組織の構築</p> <p>3) 継続的な取り組みの実施</p> <p>4) 戦略的な展開をするための基礎データの収集推進</p> <p>5) 少しずつ進化していく取り組みの展開</p> <p>6) 国等の支援制度の積極的な活用</p> <p>(3) 旅行会社や鉄道事業者、バス事業者等との連携・協働に向けて</p> <p>1) 旅行業者や運輸事業者等との連携・協働による取り組みの推進に向けて</p> <p>(4) 各主体の役割</p>
--	---

2 筑波山周辺地域における魅力向上方策の検討

筑波山及びその周辺地域におけるこれまでの取り組みや他山との比較，筑波山周辺地域魅力アップ戦略プラン策定懇談会における主な意見，魅力・優位性，問題・課題等を踏まえ，地域が目指すべき方向性を次のように設定する。

方向性1：筑波山周辺地域で育まれてきた地のもの・人々を活かす

筑波山周辺地域には，様々な農畜産物や観光・交流資源をはじめ，地域活動を展開する人々や団体が存在していることから，こうした地域で育まれてきた地のもの・人々が持っているものを最大限に引き出す取り組みを展開する。

方向性2：筑波山の山としてのホスピタリティを高める

子どもから高齢者，障害者など，誰もが登れる“筑波山”を目指し，筑波山の山としてのホスピタリティを高めるための施策を展開する。

方向性3：筑波山周辺地域のホスピタリティを高める

筑波山周辺地域への来訪者を温かく迎え，交流を深めることにより，地域全体の活性化を図るために，筑波山周辺地域全体のホスピタリティを高めるための施策を展開する。

方向性4：水郷筑波国定公園としての品格を高める

筑波山周辺地域は，豊かな自然環境や歴史的風土を有する水郷筑波国定公園に指定されていることから，引き続き国定公園としての品格を高め，来訪者を迎える施策を展開する。

方向性5：県，市，市民等の広域的な連携を強める

筑波山周辺地域の関係市が相互に連携し，魅力を高めていくために，県，関係市，関係市の市民等の広域的な連携を強めるための施策を展開する。

3 目指すべき方向性と魅力向上方策の展開

筑波山周辺地域が有している魅力・優位性、地域が抱える問題・課題などを踏まえ設定した、目指すべき方向性と魅力向上方策の対応関係を以下に示す。

魅力・優位性、問題・課題	目指すべき方向性と魅力向上方策
<p>【魅力・優位性】</p> <p>3 - 1 筑波山の魅力・優位性の抽出 多様な登山コースの存在 数々の伝説を持つ奇岩怪石群の存在 日本最多を誇る万葉の筑波 関東平野を一望できるダイナミックな眺望</p> <p>3 - 2 筑波山周辺地域の魅力・優位性の抽出 多様な観光・交流資源の存在 筑波周辺地域観光サミットの開催など、連携型観光振興策に対する関心が高まる地域 地元住民・団体等と行政との連携による取り組みの展開 様々な活動を展開する地域団体等の存在 地域資源を活かしたイベント・祭りの展開 食ブランド・ブランド食材の存在 地元食材や歴史を活かした新たな取り組みの展開 地元の人々の手で創り上げられたイベント・祭りの展開 来訪者をもてなす心配りを実践する人々の存在 着実に実施しているPR活動</p>	<p>方向性1：筑波山周辺地域で育まれてきた地のもの・人々を活かす</p> <p>1) 多様な登山コースを活かした取り組みの展開 既存の筑波山登山イベントの促進 新たな取り組みの展開</p> <p>2) 多数の奇岩怪石群や言い伝えを活かした魅力付け</p> <p>3) 万葉集に歌われた筑波山“歌垣のつくばね”という歴史的背景を活かしたPR強化</p> <p>4) 多様な地域資源を活かした体験型観光の展開 既存の体験型地域資源等を活かした取り組みの展開 新たな取り組みの展開 既存の恒例イベントからの脱却を図り、変化、成長し続ける取り組みの展開 地域資源を発掘し、活用を推進する事業の展開</p> <p>5) 特産品の開発促進と販路拡大方策の展開</p>
<p>【問題・課題】</p> <p>3 - 3 筑波山及び周辺地域観光の問題・課題の抽出 (1) 筑波山登山に関わる問題・課題</p> <p>1) 登山道に関わる問題・課題 体力を必要とされる登山道 体力度などのレベルに応じたコース設定がなされていない 障害者などは自力で登山することができない</p> <p>2) 登山に関わる関連施設等の問題・課題 登山道の愛称がない、あるいは認知されていない 画一的なコース案内標識()の情報 裏登山道の起終点における駐車場の不足 山頂付近における飲料水の確保やトイレ等の老朽化 筑波山に関する情報提供拠点が整備されていない</p>	<p>方向性2：筑波山の山としてのホスピタリティを高める</p> <p>1) 誰でも登れる筑波山に向けた新たな魅力付け</p> <p>2) 登山者をもてなす配慮 登山用具の無料貸し出しなどによるもてなしの推進 来訪者に興味を惹かれ、楽しく登山ができる登山道案内板の魅力付け 必要な体力度、登山道の条件度、危険度(歩行難易度)等を表示したガイドマップの作成、PR 山頂付近の施設・設備の充実 筑波山観光の拠点となる滞留場所の形成</p>
<p>(2) 総合的な交通混雑緩和対策の必要性 行楽シーズンにおける慢性的な交通渋滞の発生 筑波参道入口(つくば市沼田地内)へのマイカー観光客の一極集中 筑波山神社付近まで生活圏が形成された特異な特性 筑波山駐車場の容量不足 筑波山駐車場の満空情報や迂回情報(誘導情報)の提供不足 表筑波スカイライン沿道の閉鎖された駐車場用地の有効活用 表筑波スカイラインにおけるバス路線の新規開設に向けた問題の解消</p>	<p>3) 総合的な交通混雑緩和対策の展開 交差点改良の促進 パーク&バスライドモデル実験の継続実施 様々な方策を組み合わせたモデル実験の展開</p> <p>4) 筑波山頂・中腹への集中観光を、すそ野へ誘導する方策の検討 筑波山登山口近辺及び麓における交流活性化拠点の形成 新旧のハイキングコースや観光資源を活かした取り組みの展開</p>

魅力・優位性，問題・課題	目指すべき方向性と魅力向上方策
<p>(3) 筑波山へ向かうための公共交通機関の脆弱性を解消することの必要性 東京からの移動コストが高く，移動時間が長い TXつくば駅，JR土浦駅・石岡駅から筑波山へ向かう2次交通が脆弱 筑波山きっぷのさらなる利便性の向上</p> <p>(4) オーバーコース（過剰利用）の解消対策の必要性 行楽期のピーク時におけるロープウェイ等の待ち時間 筑波山頂・中腹への集中観光を，すそ野へ誘導する方策の検討</p>	<p>方向性3：筑波山周辺地域のホスピタリティを高める</p> <p>1) 筑波山周辺地域の地域資源を活用した周遊ルートの検討 つくばセンター(つくば駅)や筑波山口を起点にミニバスツアーモデル事業の展開 地元自治体の連携による周遊体験プランの合同実施検討 既存のサイクリングロードを活かした魅力向上方策の展開 周遊ルートの検討</p>
<p>(5) 筑波山から次の目的地への回遊・周遊性を高めるための対策の必要性 筑波山から先へ向かう移動手段が少ない(ない) 筑波山周辺は幅員狭隘の道路が多く，大型バスの運行が困難 どういった観光・地域資源があるのか認知されていない(PR不足) 見知らぬ土地で誰でも安心して公共交通機関を利用できる事前情報の提供</p>	<p>2) トータル周遊コスト低減方策及び交通利便性向上方策の検討 2次交通の利便性の向上方策の展開 定期観光バスツアーの運行促進 有料観光・交流施設の相互利用の促進</p>
<p>(6) 来訪者に対するもてなし，ホスピタリティに意識を高揚させることの必要性 つくば市，かすみがうら市では観光ボランティアガイドに登録されている団体がいない ホスピタリティ意識の醸成</p>	<p>3) ホスピタリティ向上方策の展開</p>
<p>(7) 筑波山及び周辺地域における総合的な景観施策展開の必要性 阻害されてきている筑波山麓地域の良好な景観 老朽化した印象を与える道路構造物の存在 筑波山神社の重厚な趣と調和していない門前町の景観</p>	<p>方向性4：水郷筑波国定公園としての品格を高める</p> <p>1) 水郷筑波国定公園としての品格を高めるための総合的な景観施策の展開 2) 余計なものを省き，本来持っている地のものを前面に出すための景観施策の展開 茅葺き民家や商家，農家住宅などの歴史的建築物を活かした景観誘導 幹線道路沿道の適切な景観誘導 道路構造物や屋外広告物等の適切な管理</p> <p>3) 筑波山のビューポイント(視点場)における景観施策の展開 4) 筑波山神社門前町における景観整備施策の展開</p>
<p>(8) 筑波山及び周辺地域における総合的な情報発信の必要性</p> <p>1) 筑波山周辺地域における情報発信体制上の問題・課題 筑波山周辺地域の広域的，かつ新鮮な観光情報を一元的に提供する仕組みがない 広域的なPRが大々的に行われていない</p> <p>2) 筑波山に関わる情報発信上の問題・課題 実際に登山する人が必要な細部の登山情報や情報提供施設がない マーケットに応じた情報発信が行われていない</p>	<p>方向性5：県，市，市民等の広域的な連携を強める</p> <p>1) 筑波山周辺地域における総合的な情報発信体制の構築 2) 効果的な情報発信手法の検討 CI等による明確な地域イメージの訴求 様々な広告媒体を活用した情報発信施策の展開 筑波山周辺地域のベスト風景・景観ポイントのPR推進 フィルムコミッションによる筑波山周辺地域の魅力のPR推進 アマチュアカメラマンとのコラボレートによる筑波山周辺地域の魅力のPR推進</p> <p>3) リピーターの囲い込みに向けたプロモーション活動の展開 4) 様々な主体との連携による情報発信の推進</p>

参 考

筑波山周辺地域魅力アップ戦略プラン策定懇談会の概要

目 的	筑波山周辺地域の行政や各種団体，旅行業者やバス事業者，マスメディア関係者等から現状認識や課題を踏まえ，筑波山周辺地域の魅力アップに向けた助言・提案をいただく。
日 時	平成19年3月20日（火） 午前9：30～12：00
場 所	つくば国際会議場 小会議室404

【魅力アップの方向性に係る主な意見等】

- 1 新たな施策の展開について
 - ・ シシ鍋祭りなどの新規のイベントを活用した観光客の誘客促進
 - ・ TXの開業により増加した筑波山観光客の周辺地域への誘引
- 2 山としてのホスピタリティの向上
 - ・ 誰もが登れる筑波山とすることが大切
- 3 観光客の受け手としてのホスピタリティの向上
 - ・ 来訪者を迎え入れる地域住民等のホスピタリティの向上
- 4 仰ぎ見る筑波の取り組み
 - ・ パーク&ウォークの促進による山裾への回遊
 - ・ 余計なものを省き，本来持っている地のものを前面に出す（景観施策の展開）
 - ・ 景観法の活用による景観施策の検討
 - ・ 筑波山のビューポイント（視点場）における施策の検討
 - ・ 水郷筑波国定公園としての「格式」を持たせる
- 5 NPO等のネットワーク化について
 - ・ NPO等関係者との連携を強化し，地域の取組みへの支援
- 6 PRの展開方策について
 - ・ メインになるコアターゲットの明確化と顧客ニーズの把握による事業展開
 - ・ ITの活用，食・土産物によるPR方策の検討，高尾山との比較宣伝等PR手法の検討
 - ・ 民間企業や観光施設等との連携による情報発信など，広域的な情報発信の強化
- 7 社会実験の継続的な展開
 - ・ 社会実験の効果を検証しながら，継続的な取組みの展開
- 8 筑波山におけるビジターセンターについて
 - ・ 既存の物を工夫し，自然や歴史の学習，休憩ができる施設のあり方の検討
- 9 定期観光バスの検討
 - ・ 二次交通の確保，予約型の定期観光バスの導入検討
- 10 旅行業者との連携について
 - ・ 行政と旅行業者との連携により，目標やターゲットを絞った事業展開